

平成29年度 山梨県果樹試験場試験研究課題評価結果

1 評価委員名

- 高梨 祐明 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門 企画管理部長)
- 小澤 博 (山梨県果樹園芸会 会長)
- 鈴木 忠 (日本園芸農業協同組合連合会 専務理事)
- 奥田 徹 (山梨大学大学院 総合研究部附属ワイン科学研究センター長)
- 中沢 弘 (巨摩野農業協同組合 営農指導部長)

2 評価実施日

- 第1回課題評価委員会 (事前・中間) 平成29年8月24日
- 第2回課題評価委員会 (事後) 平成30年1月25日

3 評価課題

(1) 事前評価課題

- ア) 大課題：スモモ及びオウトウの優良品種選抜と栽培技術の確立 (S51～)
小課題：スモモ、オウトウの優良品種の特性調査(第6次) (H30～34)
- イ) 大課題：果樹園の土壌管理等による果実安定生産技術の確立 (H30～34)
小課題：生理障害発生園の土壌環境実態把握 (H30～32)
小課題：土壌管理等による果実生理障害の発生抑制 (H32～34)

(2) 中間評価課題

- ア) 大課題：核果類新品種の育成 (S63～)
小課題：モモ新品種の育成 (S63～)
小課題：スモモ新品種の育成 (S63～)
小課題：スオウトウ新品種の育成 (S63～)
小課題：系統適応性検定試験 (S56～) 県単・国委
- イ) 大課題：ブドウ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S59～)
小課題：ブドウ「シャインマスカット」の出荷時期延長技術の開発 (H28～30)

(3) 事後評価課題

- ア) 大課題：スモモ及びオウトウの優良品種選抜と栽培技術の確立 (S51～)
小課題：スモモ、オウトウの優良品種の特性調査(第5次) (H25～29)
- イ) 大課題：ブドウ及び核果類等の病害虫薬剤防除法の改善 (S54～)
小課題：ブドウ果実腐敗病防除対策の確立 (H27～29)
- ウ) 大課題：果樹園における有機物資材を主体とした施肥法の開発 (H27～29)
小課題：無化学肥料栽培に向けた有機物資材施用方法の確立 (H27～29)
小課題：土壌 pH 調整による樹体への養分吸収適正化方法の確立 (H27～29)

4 具体的な評価点、総合コメント

(評価点の目安)

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

事前評価報告書

果樹試験所評価委員会

平成29年8月18日(金)

研究種別	一般課題	
研究課題名	スモモ及びオウトウの優良品種選抜と栽培技術の確立(S51～) スモモ、オウトウの優良品種の特性調査(第6次)	
研究期間	平成30年度 ~ 平成34年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	3.6
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.2
	総合評点	3.8
<p>[コメント] 山梨県の農業現場のニーズにしっかりと対応した重要な課題である。優良品種の選定は常に取り組まれるべき課題であり、手法等に特段の新規性はないが、本研究では主力品種の端境期を埋める有力品種の洗い出しという目標が明確であり、期間内に成果が期待できる。最近では、消費者から高糖度の果実が求められる傾向が強くなっており、品質評価に当たっては特にその点を重視するべきである。また、山梨の環境に適合する作りやすい品種という場合、病害虫との絡みも重要な視点なので、必要に応じて病害虫分野の研究者と連携しながら進めて欲しい。</p>		

事前評価報告書

果樹試験所評価委員会

平成29年8月18日(金)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	果樹園の土壌管理等による果実安定生産技術の確立	
研究期間	平成30年度 ~ 平成34年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の新規性	3.6
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.8
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.2
	総合評点	3.7
<p>[コメント] 様々な現象の基盤的な要因として土壌環境に着目した点は優れている。特に、果実の生理障害の多発傾向に対し、山梨県の生産現場では土壌環境の変質を通じた気候変動の影響を懸念する見方が根強くあり、温暖化等と土壌環境の関係性に対する科学的な検証と、影響が確認された場合の合理的な解決策を提示する必要性は高い。手法について、土作りのアプローチは多種多様であろうが、試験場内での研究に止まらず、開始当初から現場への働きかけ、調査を密に実施して、最終的に実践的で普及性の高い成果を引き出してもらいたい。土壌と樹体の結節点として「根張り」に注目しているという説明だったので、その点を研究計画に明記したうえで進めて頂きたい。</p>		

中間評価報告書

果樹試験場課題評価委員会

平成29年8月18日(金)

研究種別	一般課題	
研究課題名	核果類新品種の育成	
研究期間	昭和63年度 ~	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	3.8
<p>[コメント] 本課題は概ね計画通りに進行しており、新たな有望品種候補も創出されている。登録出願が予定されているモモ山梨17号は、収穫期が長く、保存期間が長いが従来の硬肉性とは異なる物理性を有する、これまでにない特性の品種であり、モモの流通形態に新たな展開を生む可能性がある。新規な特性を持つ有望品種の普及を確実にするため、その特性を最大限に活かすための栽培技術を併せて生産現場に提供するような取り組みが期待される。一方で、スモモとオウトウについては出願予定の品種はない状況であるが、果実品質等の遺伝様式等に関する基盤研究が進展しており、実用的な品種の登録が期待される。特にスモモに関しては、消費の動向(価格も含めて)に鑑みて、農業としての経済性にも十分な配慮を行いつつ、実用的な品種育成に当たっていただきたい。</p>		

中間評価報告書

果樹試験場課題評価委員会

平成29年8月18日(金)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	ブドウ優良品種選抜と栽培技術の確立 ブドウ「シャインマスカット」の出荷時期延長技術の開発	
研究期間	平成28年度 ～ 平成30年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.4
<p>[コメント] 農家収益の向上と安定かを目指す出荷時期の延長に関し、収穫期の延長と貯蔵の両面から研究し、計画通りの進捗で成果が得られつつあると推察される。シャインマスカットは長所の多い品種であるが、山梨流の独自の活用法があるとさらに頼もしいので、従来にない視点から収穫期の延長や保存期間に寄与する新たな技術を開発してもらいたい。今後の進め方として、果実を長く樹上に置くことによるブドウ樹への負担の検証も含め、生産者の経営改善に及ぼす効果を長期的に捉えていく必要があると考えられる。また、収穫が晩秋期まで及ぶ作型については、果実の凍結の可能性やその対策を併せて考える必要性が指摘されたので、多角的な視点で技術の体系化を図って欲しい。</p>		

事後評価報告書

果樹試験場 評価委員会 平成30年1月25日(木)

研究種別	一般課題	
研究課題名	スモモ、オウトウの優良品種の特性調査(第5次)	
研究期間	平成25年度 ~ 平成29年度	
		平均点
1	研究目標の達成度	4.2
[コメント] 今回候補とした品種については、結果的にすべてネガティブな評価結果になった点は残念であるが、評価対象とした品種の特性調査が細かく丁寧にされており、県下の生産者に対して品種導入の指導をするにあたって、極めて有用な情報が得られている。引き続き第6次の課題が立つと推察するが、地道な努力を継続することを期待する。		

事後評価報告書

果樹試験場 評価委員会 平成30年1月25日(木)

研究種別	一般課題	
研究課題名	ブドウ果実腐敗病防除対策の確立	
研究期間	平成27年度 ~ 平成29年度	
		平均点
1	研究目標の達成度	4.8
[コメント] 県内で大きな問題となっているブドウの果実腐敗病の防除について、薬剤防除だけに留まらず、物理的防除法とも組合せ、実用的なコストで信頼性の高い防除体系を構築した点で、生産現場に貢献する成果である。 今後は、指導機関とも連携しながら、防除暦等にも反映させ、生産現場での防除体系として確立させていくことを期待する。		

事後評価報告書

果樹試験場 評価委員会 平成30年1月25日(木)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	果樹園における有機物資材を主体とした施肥法の開発	
研究期間	平成27年度 ~ 平成29年度	
		平均点
1	研究目標の達成度	4.4
[コメント] 長期にわたる地道な研究成果であり、学術的にも産業的にも貴重な知見が得られている。牛糞堆肥の継続的な施用により、土壌化学性と物理性、根系発達及び樹体生育が改善され、最終的に果実品質が向上することまで実証したことは特に高く評価される。近年のモモ栽培は草生栽培が多くなっていることから、草生栽培において、有機配合肥料だけの試験区と有機配合肥料+牛ふん堆肥の試験区の比較データが望まれるところである。		